

2015.3.15

小原院長の“いま一番気になる人・仕事”スペシャル対談

上一枝×小原忠士

平成2年の開院以来、25年間にわたり地元連島を中心に多くの住民の方から信頼を頂き、皆様の健康に貢献してきた小原整骨院。その小原院長が“いま一番気になる人・仕事”というテーマで、ゲストの方と対談をして頂きました。今回は、パソコン教室の講師でありながら、倉敷昔きもの『くらから』を経営する上一枝さんとFM暮らしきの長寿番組「プリーティーウーマン」の池上清美さんと共に、着物から繋がった東北復興支援について語り合っていました。(2015年3月14日(土)くらからにて)

「周りの人に恵まれていると感じるんです。だから人の繋がりがって大切です！」

ゲスト紹介

■ 上一枝 (倉敷昔きもの「くらから」経営)



1960年 三原市出身。高校を卒業後美容師として働く。現在は笠岡市の公民館にて日本一楽しいパソコン教室を目指しながら講師をしている。週末は倉敷にて季節着物と昔着物の販売をする「くらから」に勤務。映画鑑賞やゴルフなど多彩な趣味を持つかわら、宮城県南三陸町への復興支援を震災直後から継続している。

《所属》備後ゴルフ倶楽部『楽』。笠岡ラーメン応援団女子部。岡山きもの部。岡山県情報リポーター笠岡担当。「明日への架け橋」kasaoka所属。

■ 池上清美 (FM 暮らしきプリーティーウーマン パーソナリティ)



1960年 玉野市出身。放送回数が800回を超えるFM暮らしきの長寿番組「プリーティーウーマン」の市民パーソナリティをするかわら、日本女性会議など市民活動にも勤しむ。倉敷女性大学1期生。そこで男女共同参画を学ぶことが転機となり、岡山県女性海外派遣団員としてデンマーク、スウェーデンへの視察がきっかけとなり専業主婦から「私も納税者になろう！」と、様々な経験を重ねる。「転んでもタダでは起きない！」「何か掴んで立ち上がる！」をモットーに、「すぐやる、必ずやる、できるまでやる！」行動力と「笑顔・感謝・思いやり」という人当たりの良さで

株式会社エミリンク (小原整骨院)

Copyright (c) 2014 Emilink.Co.,Ltd. All Rights Reserved.

場の雰囲気を盛り上げるムードメーカー。2016年4月から（株）エミリンクに所属。

■ 小原忠士（小原整骨院 院長）



1964年 倉敷市出身。地元である倉敷市連島で開院以来25年にわたり地域の皆様の健康に貢献してきた小原整骨院の院長。柔道整復師としての技術力は当然、その穏やかな人柄で多くの患者に慕われ、スタッフからの信頼も厚い。6月には株式会社エミリンクとして法人設立。代表取締役となる。

■ 司会進行 俣野浩志（株式会社パッション）

1970年 岡山市出身。一般社団法人ウェブ解析士協会認定 初級ウェブ解析士。経営修士（MBA：香川大学大学院地域マネジメント研究科）。大学でマーケティングを学んだ後11年間印刷・デザイン業界に勤務。2009年に岡山県産業振興財団主催のベンチャー・ビジネスプランコンテストにて奨励賞を受賞。2013年大学院にて「住民主体の体験交流型プログラムが地域社会に与える影響についての考察」というテーマで、NPOのまちづくりを研究した。

着物姿での町歩きは、自分だけでなく周りの人も楽しませることができる素敵なこと！



司会：今回は笠岡でパソコン教室の講師をされながら、倉敷で着物の着付けや販売をする「くらから」のオーナーでもある上一枝さんとFM暮らしきの長寿番組である「プリーティーウーマン」のパーソナリティ池上清美さんを交えての座談会となりましたが…まずは今回の座談会が実現した経緯をお聞かせください。

小原：昨年8月に初めて浴衣デビューをし、和服に魅力を感じました。で、知人に近くで着物を販売しているところがないか聞いたところ、リサイクルで格安の着物を販売されている方がいらっしゃるから相談してみてもよかったです。上さんにお会いすることができました。

株式会社エミリンク（小原整骨院）

Copyright (c) 2014 Emilink.Co.,Ltd. All Rights Reserved.

上: そう、去年の 10 月でしたか？小原さんが突然訪ねていらして、着物を購入されましたね。その後、はかまも…。そして一緒に美観地区を歩く会や、着付け教室にも参加されて。

池上: 去年の FM 暮らしきの「プリティーウーマン」忘年会に小原先生が着物で登場されたのは、「くらから」さんのお着物だったんですね。インパクトありましたよー。

小原: いつも着物姿が素敵な上さんですが、まず着物について伺っていきたくと思います。実は、4 月の「気まぐれ！メンズトーク」という私たちがパーソナリティをしている FM 暮らしきの番組にご出演いただけるということで、ゲストへの 10 の質問というものに答えていただきました。その中で「今一番こだわっていること（マイブーム）はなんですか」という質問に『マイブームはずっと着物』と答えられています、具体的にはいつ頃からマイブームになったのでしょうか？

上: 着物を着始めたのは 5 年ほど前からで、それまでは着ていなかったんですよ。キッカケは、まみちゃんという着物友達ができたから。彼女と知り合って二人で着物を着てお出かけをするようになって…月に 1 回くらいの頻度かな。倉敷へご飯を食べに行ったり、美観地区を散策したり、着物を着てお出かけするのが楽しかったんです。元々私は美容師だったので着付けは習っていたから、着物には馴染みもあったんです。



小原: 今年のお正月に、くらからさんのイベントで着物で美観地区を歩く会に参加させていただきました。観光客が多い美観地区でも結構目立って、注目されるとなぜか気持ちが高ぶるといふか、洋服など普段着でない服装で散策する楽しさってわかりました！

上: でしょう！そうやってどんどん着物にハマっていくのよ。

小原: 本当にそうですよね。完全に着物の魅力にハマってますよ…家紋まで入れようと思うようになりましたしね。

池上: 小原先生、ハマりやすいタイプなんですね。でも、ここにある着物、素敵な柄が多いですね。和柄だけではなく音符なんかもあるし。私もハマるかも…。ところで「くらから」を始められたキッカケは？

上: 「くらから」は一昨年ゴールデンウィークにオープンしたんです。倉敷に通うようになって facebook で kobacoffee の小林さんと知り合いになって…。倉敷は着物が似合う街だと思っんです。笠岡からでも来やすい観光地だし、美観地区の町並みがとても素敵で…倉敷に住みたいと思うようになったんです。

そんなとき、小林さんが蔵を改装してカフェをすることになり、二階を借りて週末だけ

でも着物の店をやろうと思ったんです。着物の友達が欲しくなって。ネットだとなかなか会えないので、リアルな友達をもっと作ろうと思って…。



小原：なるほど。それで着物のイベントなどに大勢の方と参加されてるんですね。

上：着物で歩く会は、年に数回ほどイベントをやっていて、「倉敷春宵あかり」や、幻想庭園で後樂園に行っています。今、着物姿で歩いている動画を撮りためているんです。

池上：大正ロマン！頭の中で、はいからさんが通ってるわ！

小原：それ分かる人って…年齢バレますよ。

上：ははは…。ほんとイメージはその通りでしょうね。着物のインパクトってすごくて、着物友達と一緒に正月に食事をしていたんですけど、食事が終わって倉敷川の方に出て行くと、観光客の方が「何かロケでもやっているのか？」って思ったらしくて、みんな注目していたんですよ。びっくりしたんでしょうね。着物の人が何人もぞろぞろ出てくるので…。

池上：絶対そう思われているでしょうね。ひょっとしたら俳優に会えるんじゃないかって思ったのかも。時代物やドラマなんかで「あっ美観地区！」っていうのはよくありますからね。

小原：それって、観光客にとってみたら、期待させといて肩透かしのような気がしないでもないですが…（笑）。でも周りの人をしっかりと喜ばせていますよね。お店をオープンした目的の通り、着物姿で町歩きを一緒に楽しむ友達が増えたのですね。

上：ええ。ここにいるといろんな人が入ってこられるんです。「くらから」はfacebookにしか情報を出していないのですが、着物で検索してここを見つけたって、大分からも来てくれた人がいるんです…電話をくれて、観光の合間に寄ってくれるんです。そういった人が「また来るね」って言ってリピートしてくれるんです。去年も、5月に知り合った東京の友達が奈良の友達を連れて来てくれたりとか。そういう繋がりをいつもいただいているので…。

小原：大好きな着物でいろんな人に繋がって、さらにその繋がりが継続していく…新しい出会いも生みながら。素晴らしいです。ところで、普段は着物とは全く関係ない別の仕事をされているとか…。

上：そうなんです。実はパソコン教室の講師をしています。着物とは全く関係ない（笑）。着物の仕事は週末だけ。普段は「日本一楽しいパソコン講座」を目指して…年配の方向けにパソコン教室をしてるんですよ。7教室やっていて全部で100人くらい生徒さんがいま

す。皆さんとっても楽しんでくれています (笑)。

池上: あ〜それで！facebook やブログへの投稿が多いし、ネットとか使いこなされてるなあって感じてたんですよ。でも私と同年齢でパソコン講師って、長いんですか？

上: 10年くらい前からかな。もともとは美容師だったんですよ。結婚を機に美容師を辞めて育児に専念してたんですけど、その時にパソコンを習いに行って…パソコンが好きだったんで。当時国から補助が出る制度があったんですよ「IT 講習」だったかな、公民館主催で行う。それで笠岡の公民館で学んで。その時の講師が市役所の守屋さんで、守屋さんの支えもあって他の人に本格的に教えるようになったんです。公民館も資格を取りに行かせてくれるなど後押ししてくれて。今は生徒さんの3分の2が地元以外から習いに来てくれます。公民館でしか広報していないんですけどね…。

小原: 上さんのパソコン教室受講してみたいですね。ほんと楽しそう。ところで、facebook の投稿を拝見すると、東北の南三陸へ復興支援に行かれているとか。

震災から4年、節目だとは思っていない。節目はない、人の営みは毎日のことだから！

上: そうです。震災の年の7月から行っています。震災からしばらくは宿泊なんてできなくて、ホテル観洋が営業を再開して女性が泊まれるようになったので、それから行くようになったんです。

小原: 復興支援といっても、災害ボランティアや義援金など様々な支援の仕方があると思うのですが、自ら訪れて支援しようと考えられたのはどうしてですか？



上: 誘っていただいたからなんです。笠岡商店街は、震災前の2009年から「全国ぼうさい朝市ネットワーク事業」という、有事の際に機能するネットワークに参加してたんですね。加盟している商店街は南三陸や酒田、飯山・大阪・鹿児島・笠岡などで…。このネットワークは、全国から救援物資として特産品を送り炊き出しをしたりするんです。例えば、酒田だとも煮の調理器具を送って、材料と共に人もかけつけ、調理

し販売を行うというように、もしどこかで災害が起きたら助け合おうという商店街同士の繋がり。

池上: 震災前から！？

上: そう震災前から。すごいでしょう。私も商店街とは様々なイベントの手伝いに行ったりとか繋がりがあったんです。

でも実際にやってみると、物資が届かなかったのです。物流網が寸断されてて。でも防

災朝市ネットワークのおかげで一番に駆けつけることができたんですよ。

小原：南三陸では具体的にどんな支援を？

上：3.11 の一ヶ月も立たない時に今のままでは商人はダメになる、商人は物を売るのでから復興市をしようと市（いち）が立ち上がったんです。自分たちの商品を持って行って販売してもらう。笠岡からは海苔、他の地域はその地域特産品を。そうして震災の4月に復興市を始めたんです。お金も津波で流されているのでタコ券という地域通貨も配って。

小原：なるほど、自立支援ですね。

上：そうです。もちろん、震災直後は自立なんてとてもできません。ライフラインの復旧が優先ですし、それには自分たちの衣食住が自己完結できる組織による支援が必要です。その後から、ボランティアなどが拠点活動を行います。その段階になって初めて私たちの活動が活かされてくるのですが、被災地の多くはボランティアなど支援者らの活動を受け入れると、自分たちでなんとか立ち上がろうという復興に向けた活動領域が少なくなってくるんです。自立することは自尊心にもつながりますから、ただ支援するんじゃないくて、そういった自立の機会を作ることが大切だと思うんです。



南三陸から欲しいものの連絡があったら2日目には被災地に届けられるので、やろうということになったんです。酒田経由で。

池上：それで商店街なので市なんですね。

上：ええ、市を起こして福を呼ぶ。震災直後は売るものもないから、こちらの商品を買ってもらったのですが、市の開催自体がとても良い取り組みになって…人と人が会う場所、安否確認の場としても機能したんです。連絡する手段のない被災者の出会いの場でもあった。

南三陸さんさん商店街は、被災地でも活気がある商店街として有名になって、表彰されるくらい。人を集める力があるし催し物もすごくやっている。被災地の中で一番でしょうね。震災直後にマスコミ対応はすべて町長が受けると話題になった…町長も素晴らしい方ですよ。この南三陸町って天皇陛下が2回も訪れてらっしゃる。

小原：南三陸では着物も販売しているとか。

上：着物は去年からです。それまでは復興支援で行っていました。2012年から浴衣を送り始めて、着物や帯、小物合わせて4,000点ほどを、新聞やラジオ、ソーシャルメディアで声をかけていただいて集めたんです。それで去年の10月に東北で即売会と着物のショーを開催しました。また商店街の中の一部で販売もしています。4月にまた販売する話をしています。毎月復興市があるのでそれに合わせるかたちで。3月は気候が厳しいので、4月にする。早く配らないと仮設住宅の方々が復興住宅に移ったりしてバラバラになってしまうので…。

皆さんからいただいた着物は、サイズを測ってわかりやすくして送っています。写真も

撮って…。浴衣は腰ひも2本と下駄をセットにして、袋の上に何センチとサイズを書いて…。最初の年は1,000着を超えましたね。次の年は行き渡ったので数百点くらいでしたが。

小原：やはり喜ばれますよね。

上：はい、着物って自分も楽しくなるし、周りの人も楽しませることが出来るから、とっても喜んでもらえました。少しだけかもしれないけれど、心にゆとりを感じられるんじゃないかなあって、そんな気がするんですよ。



池上：それ何となくわかります。被災された方々にお化粧をしてあげると喜ばれますよね。

小原：上さんの活動や人脈の全てが繋がってますね。公民館のパソコン教室での市役所の方との出会い、facebook などネットを通じた繋がり、商店街への関わり、それに大好きな着物。

上：ありがたいことですよね。ほんと周りの人に恵まれていると感じています。だから人の繋がりがって大切だなあって。それを実感するのが、復興支援をする私たちを支えてくれる人の存在なんです。実は私たちの後ろには、「明日への架け橋」Kasaoka という復興支援を支援してくれるグループがあるんです。ここがないと復興支援ができないんですよ。

復興市へも1年間行くようになったのですが…3月いっぱい高速代無料という国の支援が終わります。社協から受けていた車の支援も終わりました。でも、4年経ったとはいえ、このまま南三陸をほっとくというわけにはいきません。なので行くメンバーを支えるグループを作ろうということになったんです。それが「明日への架け橋」Kasaoka なんです。自分たちは支援に行けないが、行ける方を支える人たちのグループで、主に寄附など資金面でのサポートをしてくれています。

個人負担で毎月東北へ行くとなると、さすがに続かないんですよ。なので毎月のガソリン代、高速代などを支援してもらっているんです。現地での支援に参加する人は自分たちの宿泊代と食事代を負担します。

現地での支援活動に主に行っているのは5人。不定期ながら何度も参加してくれている人も多いです。行ったメンバーだと100名近くになると思います。NECは一関に工場があってそこも被災しており、他にも被災した大企業が復興支援に入っています。

中には、会ったことはない方ですが、私のブログを読んで、寄附をしてくれる方もいらっしゃいます。10万円も！「桁、間違っています」って電話したんですよ。ビックリして…。でもその方は「そちらで使ってください」って振り込んでくれたんです。そういう方達のおかげでお金に苦労することもなく支援できているんです。

池上：支えてくださる方がソーシャルメディアなどでも増えていくのですね。

上：そうですね。でもリアルでの活動があつてのことです。先日も、私たちの活動を御津

の中小企業の方々に対して、防災を考えるとと言うテーマで講演したんです。それがキッカケで南三陸までカバ車で行くことになったんです。今度で33回目になるので「第33次復興ワゴン」って言うんですけど…参加は誰でもOKで。運転手が最低3人集まったら行くことになるんです。14時間かかるので、運転手が集まらない月は行っていないのですが。

小原 : 上さんが今まで復興に関わられて、気がついたこととか、被災者への想いとかあります。逆に私たちが考えることとか。

上 : 先日の3.11の時、笠岡駅前イベントをしたんですね。来られた方に豚汁を食べてもらったんです。東北のことを思い出してくださいと言って。南三陸町は1万7,000人くらいの小さな町で、石巻よりも復興は早いと言われているんですが、今は土地を嵩上げて住宅の造成地を作っている状況。それを復興が進んでいると考えるか、そうでないか判断が分かれています。南三陸だけで836人も行方不明になられています。仮設に住めなくて南三陸から離れる方がいて、今は1万4,000人くらいに減っているんです。これから新しい町づくりをして行くのに…。

震災から4年経ちましたが、私は節目だと思ったことはありません。節目はないです。人の営みって毎日のことですから。節目の時に泣きたいっていう声は聞きます。それが私たちにできることだと思うんです。受け止めてあげることが。

イベントなどで友達になった方でも、津波で家族を亡くされた方など、知り合った当初は何も知らないんですよ。後々にならないとわからないこともあるんです。南三陸の女性の方で、3月10日が自分の誕生日だったそうですが、翌日あの津波で、亡くなられた。これから親孝行したいと思った矢先にです。一人親家庭だったんです。でもそんな辛い体験をした方が復興市で司会をしているんですよ。話をしてスッキリするんだったら私たちが背負わないといけない。もちろん背負えるのかなんて分かりませんが…。

私たちは、毎回行くのは当たり前にしなればって思います。守屋さんは笠岡市役所の復興支援で陸前高田に行かれてたんです、一週間くらい。その時に土砂を撤去した家があったんですが、私たちと南三陸へ行くときにちょっと足を伸ばして陸前高田に行こうってことになって、もう目印なんてないわけで大体この辺というのがわかると言って、なんとかたどり着いたら、その方が泣かれたんです。二回来てくれたのはあなたで2人目だって。嬉しかったらしい。ちょっとしたことなんです。私たちがしている支援って。でもちゃんと継続することが大切だと思うんです。

「明日への架け橋」Kasaokaのお金がなくなって…6万しかなくなった時があったんです。その時に、着物を集めて笠岡でも販売して、南三陸にも送ってショーと販売会をしたんです。東北は笠岡の半額くらいで卸して、東北では45万円の売上があったんですけど、商店街の被災者もお金があるわけではないからって、そのお金で一回でも多く来て欲しいって言われるんですよ。

小原 : 人と人が繋がりを実感できるっていうのが大切なんですね。

池上 : 一期一会という出会いを大切にすることはもちろんですけど、何度も会うということも同じように大切ですね。

上: ええ。行政や NPO がする復興支援は、単発で終わることが多いんです。補助事業とかだと予算も期限ありますし、仕方のないことですけど。それに NPO や市などの支援事業は色々制限があります。行きたいところでやりたい支援は、そういう仕組みの中ではなかなかできませんよね。支援も楽しみながらしないと続かないと思うんです。それに今は支援ではなく応援でしょう。支えているのではなく、共に歩いているという認識が必要です。ボランティアではなく、行きたい人で行く。行けるんだったら行こうっていう。

小原: そうですね、寄り添って…ですね。この記事を読んでくださる皆さんに伝えたいこととかありますか。

上: また 4 月に着物の販売会をしようと計画しているんです。着物と浴衣を集めるので、ご自身やご家族でもう着ない着物あれば送ってください。もちろん着れるもので。浴衣とかは洗ってあるものかクリーニングしているものをお願いします。着物をお送りいただいた方には写真やお礼状か、もしくはブログに掲載するなどで、ご報告します。

宛先は、上宛か、「明日への架け橋」Kasaoka 宛でお願いします。夏にも開催する予定ですので受付期限はありませんから。



小原: 今日は、着物から震災復興支援のことまで、濃いお話を伺いました。私達も色々考えなければと思いました。ありがとうございました。

池上: そうですね。上さんの、お人柄や行動力、憧れます。私も頑張らなきゃって感じました。ありがとうございました。

上: こちらこそ、ありがとうございました。

.....

■ 倉敷昔きもの「くらから」

〒712-8014 倉敷市本町 9-38 TEL : 090-9062-8305

■ 小原整骨院 (本院)

〒712-8014 倉敷市連島中央 2-3-22 TEL&FAX : 086-444-9595

受付時間

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
8:00～13:00	○	○	○	○	○	○	×
15:00～19:15	○	○	○	×	○	×	×

こはら鍼灸整骨院（倉敷分院）

〒710-0003 倉敷市平田 615-1 TEL : 086-486-3363